

(様式3)

## 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成23年11月18日

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0870305000		
法人名	株式会社 メディカルアシスト		
事業所名	グループホーム 和楽樹	ユニット名	1ユニット
所在地	〒300-0007 茨城県土浦市板谷1丁目478-3		
自己評価作成日	平成23年5月10日	評価結果 市町村受理日	平成23年11月15日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報	茨城県福祉サービス振興会のホームページ「介護サービス情報検索」から情報が得られます。
------	--

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成23年7月6日	評価確定日	平成23年11月4日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>ホームは住宅地の外れに位置しており、近隣にはぶどう畑や梨畑等農園が広がり、季節感あふれる環境にある。 自治会に加入し、町内清掃や盆踊り大会、その他の行事に参加して地域の方達との交流を積極的に図っている。 一人一人の特性に合わせたケアを心がけ、社会との繋がりが保てるよう支援している。 また、ホーム設立当初より都和幼稚園の子供達と親交させて頂いており、ご入居者の皆様に生活のハリを与えている。</p>
--

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>事業所は梨畑やぶどう畑などがある田畑地帯に立地している。 「一人の地域住民として交流の場を提供します。」を理念の一つに掲げ、自治会に加入して地域との係わりを大切にしている。 管理者と職員は開設以来、共に協力して利用者の支援にあたっている。 近隣にある幼稚園の園児が来訪し、遊戯や唄を披露して利用者と交流をしている。 「広報誌」と「ケアマネ便り」を月替わりで家族等に送付し、利用者の生活の様子を報告している。</p>
--

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践  地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼時には、全職員で理念の唱和を行っている。 会社理念を具体化したホーム独自の目標も掲げており、職員の意識づけと共に実践に取り組んでいる。	法人全体の理念のほかに地域密着型サービスの意義をふまえた事業所独自の理念を作成し、事務所内の目に付きやすい場所に掲示している。 職員は名札の裏に理念を付けたり、朝礼時に唱和して共有を図り、実践に努めている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい  利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、地域で行われる清掃・盆踊り大会・公民館で開かれる催し等になるべく積極的に参加し、地域の方と交流している。	地元自治会に加入し、職員は地域の清掃活動に参加している。 利用者と職員が一緒に作った手作り品を近隣の幼稚園のバザーに寄附するなど、地域とのつながりを大切にしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献  事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を活用し、認知症についての勉強会を行う他ホームで出来る事を話し合い地域に貢献する為、近隣の幼稚園に手作りの品物を寄付している。			
4	3	○運営推進会議を活かした取組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を開催し、色々な情報や結果報告・ホームでの取り組み内容や支援方法等について話し合っている。また、そこで提案された意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は家族等の代表や市職員、民生委員で2ヶ月に1回開催している。 会議では利用状況や行事報告をしているほか、市職員から報告を受けたり意見交換を行い、出た意見等をサービスの質の向上に活かしている。 運営推進会議の地域代表者は民生委員1名のみであり、運営推進会議を活かして地域と協力体制を構築するまでには至っていない。	災害時に近隣住民の協力を得るために、区長や地域住民に運営推進会議への参加を呼びかけ、運営推進会議を地域との連携や協力体制づくりに活かせるよう取り組むことを期待する。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市のグループホーム連絡会に参加し、市町村との連絡を図り、情報交換や助言・ご入居者の相談等に応じている。	運営推進会議に市担当者の参加を得ているほか、市担当者が参加するグループホーム協議会で情報交換をしている。生活保護を受給している利用者があり、市福祉課と協力関係を築いている。介護相談員を受け入れている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	役職者については、指定基準の理解を深めている。他の職員については、役職者より随時説明している。また、手の届く場所に身体拘束の手引き書を置き、自由に閲覧出来るようになっている。	職員は年2回、身体拘束排除に向けた内部研修を受講しているほか、市のグループホーム協議会が主催する市職員による身体拘束排除に向けた研修を交代で受講している。身体拘束廃止マニュアルは、職員がいつでも手にとり確認できるよう事務所に備え付けている。職員は身体拘束をしないケアに努めており、玄関は施錠せずチャイムで出入りがわかるように工夫をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待について半年に1回勉強会やカンファレンスを実施し、防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ご入居者の中には成年後見人制度を利用している方もおり、その前に地域権利擁護事業や後見人制度について話し合い、学んでいる。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書にきちんと明示されており、入居の際には、納得出来るまで十分に説明し同意を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に苦情受付の担当者が掲示されており、入居時に説明している。 また、玄関に意見箱を設置し、ご入居者やご家族の意見を運営に反映出来るよう対応している。	職員は日常のケアの中で気付いた利用者の希望を運営に反映させるように努めている。 管理者や職員は面会時に家族等に話しかけ意見や要望を聴くよう努めているが、感謝の言葉は聞かれるものの意見等を汲みあげるまでには至っていない。 重要事項説明書に苦情相談受付窓口を明記している。	家族交流会などの機会を利用して無記名のアンケートを実施するなど、利用者や家族等の思いを汲みあげるよう工夫することを期待する。
11	7	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回業務カンファレンスを開催し、その際出来るだけ職員全員参加のもと、意見や提案を吸い上げ運営に反映させている。	管理者と職員は意見を出し易い関係を築いている。 月1回代表者が参加するカンファレンスを開催し、職員が直接意見を出せる機会を設けている。 代表者や管理者は、職員から出た備品購入や勤務体制等の意見を運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎月業務に関する届出書（残業・休日出勤・有休等）を提出する他、業務カンファレンス時に職員の要望を聞き入れるようにしている。 また、職員が働きやすい環境整備に努めている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	役職や経験、資格にあった研修が受けられるように考えており、出来るだけ研修に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	他施設との交流を図る為、市のグループホーム連絡会に参加し、情報交換や交流会を通してサービスの質の向上を心がけている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居申し込みの際、ホーム見学を兼ねて来て頂き、ご本人の状態・悩んでいる事・要望等を聞き出し、実際のサービス開始時にそれらを活かせるようにしている。見学に来られない方については、ご家族に来て頂き、話をするようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申し込みの際、ホーム見学を兼ねて来て頂き、ご家族の方が現状抱えている悩みや困っている事を聞き出し、実際のサービス開始時にそれらを活かせるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス利用を開始する際、グループホーム以外の介護サービスも紹介・説明し、ご本人及びご家族がその時必要としているサービスが利用出来るよう支援している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご自分で出来る事については、声かけ・説明し、なるべくご自分で行えるよう支援している。 また、ご本人の趣味や特技を活かし、職員と一緒に活動するようにしている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事がある際には、広報誌やご家族面会時に連絡し、参加して頂けるよう促している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人の希望により行きたい場所があれば職員が同行したり、市外・圏外へ外出したいとの要望についてはご家族に連絡して送迎してもらっている。ご家族のいない方は、何らかの方法で思いが叶うよう支援している。	利用者の友人が来訪している。 利用者が馴染みの美容院の継続利用を希望する場合は、事前に美容院に連絡を取り迎えに来てもらえるように支援をしている。 利用者が他県への墓参りを希望した場合は、親族に連絡したり送迎用のタクシーを手配するなどの支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	普段の生活からご入居者同志の関係や相性を把握し、グループ分けや座席の調整を行い、孤立する事なく関わって生活していけるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用の契約が終了しても、ご入居者やご家族の方から要求がある場合は、必要な相談等に応じるようにしている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ホーム独自のハートケアプラン表を作成し、日常の会話や活動の中でご本人がやりたい事・行きたい所・こうしてもらいたいと思う事等を書き出し、ご本人の希望や意向の把握に努めている。	職員は利用者から聴いて把握した思いや希望を「ハートケアプラン表」に記録するとともに、「ハートケアプラン表」を事務所に掲示して全職員で共有し、利用者本位に支援をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の他福祉サービス利用時の様子や状況をご家族や他事業所から情報収集を行い、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送り時やカンファレンスにご入居者の状態報告を行うとともに、連携医療機関にも報告・相談し、対応している。生活行動で疑問がある場合は、ご家族に連絡・相談し、把握しておくようにしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回ケアカンファレンスを行い、ご入居者やご家族の意見を取り入れた介護計画を作成している。ホーム独自のハートケアプラン表も取り入れ、3ヶ月ごとに見直している。	介護計画は介護支援専門員が月1回カンファレンスを開催し、家族等や主治医、職員の意見をまとめて作成するとともに、3ヶ月に1回見直している。 利用者の心身の状態に変化が生じた場合は、随時現状に即した介護計画に見直している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りノートやケース記録への記入のほか、カンファレンスを活用しながら情報を共有し、日々のケアに当たっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご入居者やご家族の方と相談しながら、一人一人の要望に応えられるよう取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行事・イベントの際にはボランティアの方に声をかけて協力して頂いているほか、地域公民館の図書館で本を借りたり、地区サークル活動に見学に行ったりしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時にご入居者が受診希望される医療機関を確認し、適切な医療を受けられるように支援している。	利用前からの主治医への受診は原則家族等が付き添うことになっているが、職員は利用者の状態を家族等に伝え、適切な受診ができるように支援をしている。 週1回看護師が来訪しているほか、月1回協力医療機関の医師による訪問診療が受診できるように支援をしている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	連携医療機関の看護師に相談しながら、日常の健康管理を支援している。		



☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご入居者の入院中の状態を病院やご家族を通して確認したり、必要に応じてご家族了承のもと医療機関関係者と通院に向けての話し合いを行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化や終末期の方針についてご入居者やご家族に説明するとともに、状態変化により重度化した場合はホームとご家族で話し合うほか、係りつけの主治医とも今後の対応を検討している。	事業所は看取りの経験はないが、契約時に利用者や家族等に「重度化対応・終末期ケアの指針」を説明するとともに、重度化や終末期のあり方について、利用者や家族等の希望を確認したり主治医の意見を聞き、今後の方針を話し合っている。重度化や終末期に向けて、段階毎に利用者や家族等の意思を確認し関係者で統一した見解をもって支援ができるよう、書類を整備している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時のマニュアルを作成・設置しているほか、応急手当や初期対応の講習を行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回避難訓練（地震想定・夜間想定・火災想定）を行うほか、運営推進会議の際に非常時協力の呼びかけをしている。また、近隣の方や区長・民生委員などにも声かけを行い、災害時協力の体制を依頼している。	近隣住民の協力を得て避難訓練を実施している。 東日本大震災では職員が駆け付け、人的被害は無く近隣住民の協力も得られ、井戸水を確保することができた。 震災当日の夕食はパンなどで凌いだり、翌日からは従来通り業者から食材が配達され、カセットコンロで調理をした。 震災の経験を踏まえて米や缶詰、懐中電灯、電池などを備蓄している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人間の尊厳・プライバシーの尊厳を理念に掲げ、ご入居者の自尊心を損ねないように注意して声かけ対応を行っている。	職員は利用者の人格を尊重し、「さん付け」で呼びかけている。 風呂の脱衣所には衝立を立て、他人の視線を遮って利用者のプライバシーを確保するように工夫をしている。 個人情報の書類は事務室の鍵のかかるロッカーに保管している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	余暇活動やレクリエーションなどご本人がやりたい事を聞き出し、買い物や外出などもご本人の希望に合わせて日時を決め、支援している。			
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の決まりや都合ではなく、ご本人の希望を取り入れながらご自分のペースで過ごして頂くように支援している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣服は、ご自分で選んでもらっている。理容は、2ヶ月に1回ボランティアの方に来て頂き、切ってもらっている。 また、ご入居者が行きたいと思う店がある時は、職員がご家族の方と相談し行けるようにしている。			

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の行事にちなんだメニューを献立表に取り入れ、ご入居者の好みや咀嚼能力に合わせた調理や味付けなどを工夫している。 個々の状態に合わせ、配膳や盛り付け等出来る事は職員と一緒にを行うよう支援している。	食材は宅配業者を利用し、カロリー計算された食事を提供している。 宅配業者の献立は季節感や行事食が盛り込まれており、事業所の厨房で調理している。 利用者はできる範囲でテーブル拭きや下膳などを行っている。 食事介助が必要な利用者が多いため、職員は利用者の食事が済んだ後に利用者と同じ食事を摂っている。 外食会は待ち時間が無いように前もって予約注文をし、利用者の体調に無理がないように近所のファミリーレストランに出かけている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスに配慮した食事を提供し、毎回食事摂取量をチェックしている。 水分摂取量の少ないご入居者については、水分チェック表で1日の摂取量を確認している。		
42		○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨き・うがいを行い、口腔内の状態把握に努めている。異常があった場合は連携医療機関に報告し、適切な支援を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを把握し、オムツ交換及びトイレ誘導を時間を見計らって促し、トイレで排泄が出来るよう支援している。	職員は排泄チェック表を活用し、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握してトイレ誘導をしている。 リハビリパンツを使用している利用者にも声かけやトイレ誘導をし、気持ちよく過ごせるように支援をしている。 夜間は転倒などの危険がないよう、利用者によっては居室にポータブルトイレを置き、排泄の自立に向けた支援をしている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘症の方については連携医療機関に相談・助言を頂きながら、運動や食事療法を行い予防に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	基本的には毎日入浴出来るようにしている。極力、ご入居者の希望の日時に入ってもらおうようにしている。	風呂は毎日沸かしており、入浴予定表をもとに利用者が週3回から4回入浴ができるように支援をしている。 入浴を嫌がる利用者には無理強いせず、時間をずらしたり声かけする職員を替えるなどの工夫をし、入浴ができるように支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣や状況に応じて日中の活動を多く持ち、適度な疲労と適切な休息・睡眠が摂れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬が処方された際には、処方箋を全職員が確認するほか、変更があった場合は必ず申し送りノートに記入している。副作用については、連携医療機関や看護師に確認・相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居時に生活歴や趣味・特技などを教えてもらい、日々の余暇活動に活かし、反映させている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援  一人ひとりのその日の希望に そって、戸外に出かけられるよう 支援に努めている。また、普段は 行けないような場所でも、本人の 希望を把握し、家族や地域の人々 と協力しながら出かけられるよう に支援している	天気の良い日はベランダや庭で日光 浴をしたり、散歩に出かけたり、行 事にカラオケ・外食会・買い物を取り 入れ戸外に出かけられるよう支援 している。	利用者は天気の良い日には事業所周辺を 散歩したり、近隣にある公園まで歩いて出 かけている。 職員は暑い日や寒い日には事業所の車両 でドライブに出かけられるように支援を し、閉じこもり防止に努めている。 利用者の希望にそって、日用品の買い出 しや外食に出かけられるよう支援をしてい る。 家族等の協力を得て、普段は行けない場 所へも出かけられるように支援をしてい る。	
50		○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つこと の大切さを理解しており、一人ひ とりの希望や力に応じて、お金を 所持したり使えるように支援して いる	金銭管理は大半がホーム側で行って おり、買い物や外出時には職員が支 払っているが、ご入居者がお金を所 持したり、支払ったりしている。出 納帳は、面会時にご本人及びご家族 に確認してもらっている。		
51		○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電 話をしたり、手紙のやり取りがで きるように支援をしている	電話は、基本的に自由に使用してい る。 自分で連絡出来ない方については、 職員が代わりに電話をかけたり、手 紙を代筆したりして支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居 間、台所、食堂、浴室、トイレ 等）が、利用者にとって不快や混 乱をまねくような刺激（音、光、 色、広さ、温度など）がないよう に配慮し、生活感や季節感を採り 入れて、居心地よく過ごせるよう な工夫をしている	ホームの周りには季節の花が咲き、 ホールから連なるベランダからは畑 で育った野菜が一望出来る。 館内には、ご入居者の普段の生活風 景写真や季節に見合った装飾を施 し、ご入居者が居心地良くゆっくり と寛げるよう工夫している。	車いす使用の利用者に配慮して、玄関にス ロープを設置している。 行事の楽しさが伝わるように、廊下に行事時 のスナップ写真を掲示している。 利用者が好きな場所で自由に過ごせるよう、 畳のスペースを設けたり、居間から出られるベ ランダを設置している。 居間の窓からは田園風景が眺められ、利用者 は四季の移り変わりを感じながら過ごしてい る。 自家菜園を設け、利用者と職員と一緒にナス やトマト、さつま芋などを栽培し収穫を楽しん でいる。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースとして和室があり、コーナーにはソファとテーブルが置かれている為、気の合う仲間同士で過ごせるよう場所を確保している。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使い慣れた物や家具を持ち込んで、ご本人が居心地良く過ごせるよう配慮している。 また、ご本人の状態や好みに応じてベッドの使用を検討している。	利用者は居室に使い慣れた物品や馴染みの物品を持ち込んでいるほか、家族等と相談して本やぬいぐるみ、カレンダーなどを配置している。 職員は利用者が居心地よく暮らせるように、衣類をクローゼットに整理して収納している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部の主要部には手すりが付いており、安全に生活が送れるように工夫している。玄関はスロープになっている為、車椅子でも出入りがスムーズに行える。			

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2, 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3, たまに <input type="radio"/> 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの広がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/> 1, 大いに増えている <input type="radio"/> 2, 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3, あまり増えていない <input type="radio"/> 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2, 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2, 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない



(様式4)

## 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム和楽樹

作成日 平成23年11月14日

### 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	4	地域住民の方に運営推進会議の参加を呼びかけて地域との連携や協力体制づくりに活かせるよう取り組む。	区長や民生委員以外の地域住民の方にも運営推進会議の参加を促し、理解とつながりを深めていく。	回覧板を利用し、参加して頂ける行事・会議等の連絡を行う。	2ヶ月
2	10	家族交流会などの機会を利用して無記名のアンケートを実施するなど利用者や家族の思いを汲みあげるよう工夫する。	家族の方が意見を言いやすい環境、雰囲気を作り、今まで以上の信頼関係を構築していく。	2ヶ月毎に出しているお便りの中に、アンケート用紙を同封し、記載して送って頂くように手配する。	3ヶ月
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。